

# 事業事前評価表（技術協力プロジェクト）

## 1. 案件名

（和文）カンボジア国政府統計能力向上計画フェーズ 2

（英文）：Improving Official Statistics in Cambodia Phase 2

## 2. 協力概要

### （1）プロジェクト目標とアウトプットを中心とした概要の記述

本プロジェクトは、2008年人口センサスの実施支援が中心であり、そのプロセスの中でカンボジア政府計画省統計局（NIS）、州統計関連部局等の職員の人材育成ならびに組織としての経験の蓄積を目指すものである。人口センサスは、全国民を対象とする唯一の統計調査であり、経済政策の策定や指標として利用されるなど大変重要な意義をもつが、カンボジアにおいては1962年及び1998年に実施されたのみである。また、本プロジェクトにおける活動項目の一つである全国における事業所の名簿作成は経済統計の基礎となるが、当該名簿もカンボジアでは未だ作成されていない。

本プロジェクトでは、調査区設定、集計・審査、分析、提供などや事業所リストの作成などの活動を通じて、刊行物やウェブサイト、統計地図など有用な成果物が作成され、人口センサスという国家事業が効果的に実施される。そして、専門家との共同作業を通じて、カウンターパート自身が個々にこれらの活動を実施できるようになる。また、人口センサス実施に関するマニュアル、プロセス、後々に参考となる事例を残すことにより、組織的な経験の蓄積を図る。カンボジアの今後の発展のために、政府統計の能力向上及び2008年人口センサスの円滑な実施は重要な課題である。本プロジェクトでは、主として2008年人口センサス、さらに一部経済統計調査を通じて、計画省統計局、地方統計部局及び各省庁統計部局の人材を強化して、政府統計能力を向上させることを目指す。

### （2）協力期間

2007年4月～2010年9月（3.5年間）

### （3）協力総額

（日本側）約3.5億円

### （4）協力相手先機関

カンボジア国 計画省統計局（NIS）

### （5）国内協力機関

総務省統計局、総務省統計研修所、独法）統計センター、財）日本統計協会、財）統計情報研究開発センター等

### （6）裨益対象者及び規模、等

直接裨益者：NIS職員（約260人）、計画省州事務所統計担当職員（約380人）、主要関係省庁統計担当職員

間接裨益者：カンボジア全国民：約13百万人

## 3. 協力の必要性・位置付け

### （1）現状及び問題点

カンボジアの政府統計は、長期間に亘った内戦の影響から極めて整備が遅れていたが、1990年代に入ってから国連等の支援により、徐々に整備が進められてきた。1998年には、UNFPAの支援により、36年ぶりに人口センサスが実施され、統計整備の重要な第一歩となった。しかし、カンボジアの

政府統計は、依然、体制整備が遅れており、統計の精度もドナー国や国際機関等から疑問視されていることも多い。また、開発指標の設定や支援効果の指標設定（MDG等の関連）等、開発政策を立案する際にも政府統計の精度が障害になっており、統計分野の組織強化や人材育成は重要であり、緊急な課題である。

カンボジアでは、新統計法が2005年5月、国王の署名を得て成立し、計画省統計局（NIS）の各種統計調査に対する実施権限が更に大きくなった。一方、国の基本統計の基盤をなす人口センサスのみならず、労働統計分野の労働力人口調査、経済統計分野の事業所調査、製造業生産調査等について、能力的及び資金的な問題から、NISは援助機関の協力なしにはこれらの調査を実施することが困難な状況が続いている。このような状況下、人材育成や経済統計の改善、人口センサスへの技術的支援を内容とする要請書が提出された。しかし、事前調査時に、2008年人口センサスへのUNFPAの資金協力が不明確であることが判明し、予定通りの実施が危ぶまれたことから、プロジェクトを統計分野の基礎的な能力強化を目的とした第1フェーズ（約2年）と、人口センサスの実施支援とそれを通じた人材育成を中心とした第2フェーズ（約3年）に分けて、第1フェーズを実施しつつ状況をみて、第2フェーズに移行することとなった。統計研修を中心として実施された第1フェーズ（2005年8月～2007年3月終了予定）では、統計に関する能力が大幅に向上している（研修前後において実施した理解度テストにおいて、理解度が平均43.5%から平均71.4%に上昇した）。今般、2008年センサス実施に向けてUNFPAなど他ドナーによる協力や資金拠出がなされることとなり、人口センサスの実施が確定したことで、カンボジア政府から第2フェーズの要請が提出されたものである。要請書では、集計、分析や結果提供など主として人口センサスにおける重要な部分、かつ、日本の得意とする技術的分野における協力を求めている。

## （2）相手国政府国家政策上の位置付け

人口センサスをはじめとする政府統計調査は、社会経済開発計画（Socio Economic Development Plan, SEDP）、国家貧困削減戦略（National Poverty Reduction Strategies, NPRS）、カンボジア・ミレニアム開発目標（Cambodia Millennium Development Goals, CMDG）に関連する国家戦略開発計画（National Strategic Development Plan, NSDP）等の国家の基本的な政策を実施する上で、重要な基礎資料の供給源である。新統計法では、10年に1回、人口センサスを実施することが規定されており、98年から10年目にあたる2008年にも人口センサスを実施することが法律上も必要となっている。また、国連は10年ごとに人口センサスを実施することを勧告しており、2008年の人口センサスはまさに実施が求められる状況となっている。このような状況の下、2006年1月30日にフンセン首相による人口センサス令が発令され、2008年3月に次回の人口センサスが実施されることが決定し、同時に実施に向けての準備作業が開始されている。さらに、新統計法では、事業所調査も10年に一度実施する旨規定している。統計マスタープランにおいても事業所を調べることで、将来的なサンプルによる経済調査が可能となり、各省による統一的な産業分類を用いることが可能となることの重要性を強調している。

## （3）我が国援助政策との関連、JICA国別事業実施計画上の位置付け

本案件が属するグッドガバナンスは、フンセン首相が2004年7月に表明した国家開発戦略である「四辺形戦略」の中心に位置づけられている。カンボジア国別援助戦略でも、グッドガバナンスは4つの援助の柱のうち「持続的な経済成長と安定した社会の実現」の4項目のうちの一つに明示されている。また、JICA国別事業実施計画において、本案件は援助重点分野である「グッド・ガバナンスの推進」の中の「政府統計機能強化プログラム」に属している。

## 4. 協力の枠組み

### 〔主な項目〕

#### （1）協力の目標（アウトカム）

ア 協力終了時の達成目標（プロジェクト目標）と指標・目標値

### 〔目標〕

計画省統計局、州計画局統計部局及び各省統計部局において、人口センサスまたは他の統計調査のための企画・集計処理・分析・提供・利用が基本的にできるようになる。

[指標]

- ・計画省統計局における統計能力のある職員数
- ・州計画局統計部局及び各省統計部局における集計結果の利用・分析能力のある職員数

イ 協力終了後に達成が期待される目標（上位目標）と指標・目標値

[目標]

カンボジアの国家・地方の政策・計画・戦略の立案や実施のための基礎的かつ有効な統計資料が提供される。

[指標]

- ・NISの刊行物数及びその周期
- ・NISの刊行物の数とその販売量
- ・NISのウェブサイトへのアクセス数及び新規情報の追加

(2) 成果（アウトプット）と活動

[成果 1]

調査区設定作業が完了し、その成果が人口センサスの実施及びその後の各種統計に利用される。

[指標]

- ・作成したVillage地図及び調査区地図の数
- ・作成したVillage地図及び調査区地図を利用した統計調査数

[活動]

- 1-1 人口センサスの企画及び調査の実施並びにUNFPAその他ドナーとの調整
- 1-2 人口センサスの調査区設定の実施
- 1-3 人口センサスの調査区の維持・管理

[成果 2]

人口センサスの集計及び審査の結果、個別データが作成され、統計表が作成・公表される。

[指標]

- ・結果表数（作成された数、公表された数）
- ・個別データの件数（作成された件数）

[活動]

- 2-1 NISにおける人口センサスの集計システムの構築（UNFPAアドバイザーと共同で実施）
- 2-2 人口センサスの集計の実施
- 2-3 人口センサスの個別データの審査
- 2-4 人口センサスの結果表の作成及び審査

[成果 3]

人口センサスの統計表に基づき、その結果が統計的に分析され、分析結果が公表される。

[指標]

分析結果の刊行物、論文及びパンフレットの数（作成された数、公表された数）

[活動]

- 3-1 人口センサス集計結果の分析（UNFPAアドバイザーと共同で実施）

[成果 4]

人口センサス結果のデータベースが構築される。

[指標]

- ・データベースに収録された統計表の件数
- ・データベースに収録された個別データの件数

[活動]

- 4-1 NISにおける人口統計の統計データベースの開発
- 4-2 統計データベースの手続及びガイドラインの作成

[成果 5]

人口センサス結果の報告書が作成され、書籍（統計地図、センサスアトラスを含む）・CD・Websiteにて提供される。

[指標]

- ・刊行物、CD、ウェブサイト、統計地図及びセンサス・アトラスの数（作成された数、公表された数）
- ・研修の受講者数
- ・研修参加者の理解度

[活動]

- 5-1 人口センサス報告書の編集
- 5-2 人口センサス結果のCDの作成
- 5-3 人口センサス結果のウェブコンテンツの作成
- 5-4 人口センサス結果に基づく統計地図の作成
- 5-5 人口センサス結果に基づくセンサスアトラスの作成
- 5-6 他省庁統計職員等に対する人口センサスの結果利用・分析に係る研修

[成果 6]

人口センサス結果の小地域統計が作成・公表される。

[指標]

- ・District、Commune、Village及び調査区別の小地域統計表数（作成された数、公表された数）
- ・研修の受講者数
- ・研修参加者の理解度

[活動]

- 6-1 NISにおける人口センサスのVillage別詳細集計システムの構築（UNFPAアドバイザーと共同で実施）
- 6-2 地方統計職員等に対する人口センサスのVillage別詳細集計結果の利用・分析に係る研修

[成果 7]

事業所名簿が作成され、経済統計調査のサンプリング・フレームとして利用される。

[指標]

- ・事業所名簿に収録されている事業所数

[活動]

- 7-1 事業所リスティングの調査企画の実施
- 7-2 事業所名簿の集計、分析及び提供
- 7-3 NISにおける経済統計調査用サンプリングフレームの構築
- 7-4 事業所統計のサンプル調査の実施

[成果 8]

関係者間で人口センサスに関して（調査区やセンサス結果等）共通理解が得られる。

[指標]

- ワークショップ又はセミナー開催数

[活動]

- 8-1 プロジェクト開始時にセミナーを開催
- 8-2 調査区設定結果についてワークショップを開催
- 8-3 人口センサス結果公表時にワークショップを開催
- 8-4 プロジェクト広報のためのセミナーを開催

[成果 9]

人口センサスの各活動の手続の詳細（重要なプロセス、重要事例、マニュアル等）が準備され、集積される。

[指標]

手続に関する詳細記録の数

[活動]

- 9-1 人口センサス詳細手続関連の文書の作成および修正

[成果 10]

人口センサスに関してドナー間の調整が適切に行われる。

[指標]

ドナー間の会合の記録

[活動]

- 10-1 人口センサスに関する調整委員会への参加
- 10-2 UNFPAその他ドナーとの会合及び調整

(3) 投入（インプット）

1) 日本側

ア 専門家派遣：

1. チーフアドバイザー、2. 集計／プログラミング、3. 調査区設定／統計GIS、4. 審査／分析、5. データベース／結果提供、6. 小地域統計、7. 事業所リスティング、8. 人口センサス実施管理／業務調整

イ 研修員受入（本邦もしくはは第三国）：

1. 人口センサス（分析）、2. 人口センサス（小地域統計）、3. 事業所リスティング

ウ 供与機材：

1. A3カラー複合機、2. A4カラーコピー機、3. センサス用サーバー、4. 入力用PCのネットワーク関連機器、5. プロジェクタ、6. センサス用ソフトウェア（サーバー、データベース、インターネットサービス、アプリケーション構築並びにGIS用）等

2) カンボジア側

ア カウンターパート配置：

プロジェクトディレクター、プロジェクトマネージャー、他メンバー

イ 日本人専門家のための事務室及び事務用品

ウ プロジェクト活動に係る運営経費

エ プロジェクト活動のために必要なデータへの自由なアクセスの承認（人口データ、経済データ等）

(4) 外部要因（満たされるべき外部条件・前提条件）

- 政策策定者が統計情報の重要性を認識する。

- 必要な予算が確保される。
- 各関係機関との必要な調整がNISによって行われる。
- 人材が定着する。
- UNFPAアドバイザーが予定通り派遣される。
- 2008年の総選挙により人口センサスの日程が変動しない。
- UNFPA及び他ドナーの2008年人口センサスへの協力が同センサス終了まで継続する。
- ノンプロ無償見返り資金などにより人口センサスに必要な資金が確保される。
- カンボジア政府が2008年人口センサスを延期または中止しない。
- 統計センターが計画どおり建設される。

## 5. 評価5項目による評価結果

### (1) 妥当性

統計情報は、フンセン首相の提唱する四辺形戦略の中心に位置するグッドガバナンスを進める上でも、また、政府の諸活動をモニタリングするためにも重要である。NSDP (National Strategic Development Plan) は2006年～2010年の開発ビジョンをまとめたものであり、カンボジア・ミレニアム目標等とも関連しているが、NSDPの活動の進捗のモニタリングのためにもタイムリーで信頼性のある統計は大変重要な意義を持っている。

人口センサスは全国民を対象とする唯一の統計調査であり、各種の政策や計画の基礎となるが、カンボジアでは援助機関の協力なしには技術的資金的に実施が困難な状況である。また、全国における事業所の名簿作成は経済統計の基礎となるが、当該名簿もカンボジアでは未だ作成されていない。

本案件は人口センサスや事業所リスティングの作成を支援するものであり、その成果として作成される調査結果は、政府の行政機能を強化するだけでなくカンボジアの開発政策にも重要であり、国別事業実施計画における「グッド・ガバナンスの推進」に貢献するといえる。また、2008年に実施される人口センサスにあわせてその前後の一連の活動をカバーするものであり、実施時期についても妥当である。

さらに、日本においては1920年から国勢調査が実施されているほか、統計に関する国際協力の経験も蓄積されており本件協力について高い技術力を有している。

これらの点から、本プロジェクトの妥当性は高いと判断される。

### (2) 有効性

プロジェクトにおいては、人口センサスにおける調査企画・集計・分析・結果提供等の一連の活動により、統計表の作成、センサス結果の公表、関連書・CD・ウェブサイトの作成などが成果として発現される。また、経済統計として事業所リストを用いたサンプル調査も実施される。これらの活動と成果はNISや他の統計関連部局と共同で行うことにより人材が育成されるため、「人口センサスその他の統計調査のための企画・集計処理・提供・利用が基本的にできるようになる」というプロジェクト目標が達成されると目される。よって、有効性は高いと判断される。

他方、ノンプロ無償見返り資金やドナーからの資金をNISが確保することは、有効なプロジェクト実施の可否にとって決定的な意味をもつ。

### (3) 効率性

人口センサスへの協力にあたっては、UNFPA等他ドナーも技術的資金的協力を行う予定であり、JICAは技術協力として優位性のある集計や分析部分を行う。専門家の派遣について、官民双方のリソースを想定し、組織的経験の蓄積や政府統計の観点から官のサポートを、統計技術の観点等から民のサポートを得る予定である。さらに、機材についても、NISの現有機材や施設を有効に活用し、追加の機材供与も人口センサス実施に必要なかつ適切なものにするよう考慮している。

また、調査区設定には、過去の開発調査で作成したGIS地図等を活用する。

さらに、協力の主である人口センサス実施により建物（事業用含む）が把握されるので、それを利用

することで事業所リスティングを効率的に実施できる。

以上から、本プロジェクトの目標達成に当たっては、効率的な実施が見込まれると判断される。

#### (4) インパクト

本プロジェクトによって人口センサスや事業所リスティングが実施され、国家の基礎的な統計データが提供されることで、カンボジアの国家・地方の政策や計画の立案に活用される。また、カンボジアの統計の精度が低いことが問題とされてきたが、プロジェクトにより正確な基礎的統計データベースが作成されることで統計の信用性の向上につながる。さらに、成果物が政府関係者でなく、学者、NGO及び一般ユーザによっても有効に活用され、長期的にはそのインパクトは広くカンボジア国民にももたらされることが期待される。

また、NISに派遣されているボランティアの活動との相乗効果（プロジェクトがカバーしない範囲におけるサポート活動等）も期待できる。

#### (5) 自立発展性

本プロジェクトの目的は人口センサスを通じた人材の育成及び組織的経験の蓄積であり、専門家による研修も含めたきめの細かい技術指導を予定している。カウンターパートや研修参加者は、センサス実施後も引き続きセンサス等の関連部局にとどまる予定のNIS、計画省州事務所及び各省庁の統計関連部局の職員である。人口センサスの諸手続きの詳細記録を作成することで、組織的経験の蓄積がなされる。したがって、人的・組織的な自律発展性については、大きな組織変更等がない限り、問題ないと見込まれる。

他方、財政面については、カンボジアが全体的に財政的に厳しく、ドナー資金に頼りがちであるため、依然課題が残されている。

### 6. 貧困・ジェンダー・環境等への配慮

#### <ジェンダー配慮>

NIS及び州統計課には女性職員も多く、また、人口センサス実施において配置される調査員には女性の雇用にも配慮する旨、カンボジア人口センサスジェネラルプランにも明記されている。さらに、調査票設計においても、女性の経済活動や職場における配置、少女の労働などジェンダーの観点を盛り込んでいる。

### 7. 過去の類似案件からの教訓の活用

ミャンマー中央統計局能力強化プロジェクトにおいては、同国の民主化の遅れにより扱える統計調査に限りがあり、正確な情報が把握できない状況にある。また、タンザニア国家統計局データ提供能力強化プロジェクトは貧困モニタリングなどへの活用をそもそもの目的としていたが、アクセスに制限があり、利用が事実上限定されていた点が終了時評価において指摘された。本プロジェクトにおいては、大規模な調査の結果を一般人が広く活用できるようにNIS側に事前に確認をとり、生データ以外の統計表の提供について了解を得た。

### 8. 今後の評価計画

- (1) 中間評価；2008年9月
- (1) 終了時評価；2010年2月
- (2) 事後評価；2014年